

エムエスピーの履歴書

水谷政司 ⑨

昭和63年の本稼働時点で初期アプリライターの採用は、自販連支部では47都道府県、53支部中で20道県の採用となりました。自販連以外の

とした地域の協力企業との協力も得て何とか乗り切りましたがこれには登録申請がOCRシートに代わったことだけに限定したアプリライター採用ユー

歴史アーカイブス

登録関係団体や行政書士の事務所への採用も含め実態は百セツトを越える納品が待ち構えており、納品の地域的にみても北は

北海道の北見地域から南は沖縄までの設置展開で、自社拠点のある関東近県や関西近県への設置も含め多忙を極めました。自社の関東圏と近畿圏の支店の協力やNECマイコンショップ会を中心

アプリライターの出荷開始、全国展開

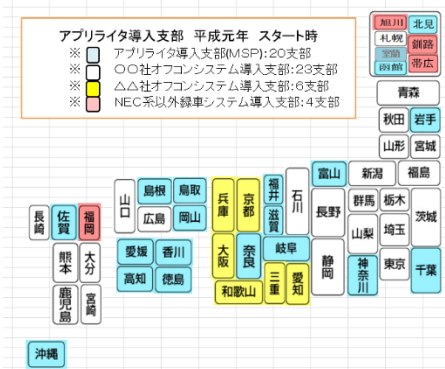
登録に係るすそ野の広さ、OA立会人を認識する

ザーの協力があつたことも事実でありました。事前の指導やマニュアルの整備だけでは当然稼働責任が果たせなかったものと今でも思っています。登録関係の仕事は、会員からのOCRシート作成や登録の業務代行だけ

ではなく自動車二税(自動車重量税や自動車税・取得税、更に国税と地方税の違いなど)や登録代行機関であることによる会員への清算業務や本部への提出が必要な各種の実績資料などの統計業務が必要でありました。従って、この業務への拡張を行い、ユーザーの期待

を実現しないと満足度は得られない事を痛感し、利用ユーザーに対する販売後の責任をどの様に取りかを判断しなくてはいけない事も痛感してきましました。設置時点では、自社サポートが可能であった関

東圏や関西圏での拡張要求に対し地域外販売を認めていなかった会社の方針もあり、隙間を利用したのサポートや出張が認められていない地方においては、NECマイコンショップ会関係企業からの



サポート要求であるとして、その会社からの出張依頼を名目としてのサポートを行ったりしていました。が早晩行き詰まりとなることは目に見えており会社方針とユーザー

サポートとの板挟みの中で葛藤する日々がありました。幸いユーザーからは『OCR申請シートの円滑移行』が最大テーマだった為、登録二税関係や清算・統計のシステム化は二次扱いの指示を得ておりました。オフコンシステムを採用した33都道府県支部は、登録二税の作成システム稼働遅れや会員との精算システム開発遅れが発生し大きなトラブルとなっていました。

登録に特化したことが幸いし順調な移行が出来たことは有難いことでした。やはり、「何でもできる」は幻で、『OAの立会人』が必要であることを立証できたと思います。(エムエスピー相談役)